

■■■ 今できることと今やるべきこと～グループホームの開設と福島の子ども支援～ ■■■

山あり谷ありの歩みを踏まえ、グループホームハナが7月から開設することになりました。支えていただいた方々のご協力にあらためて心から感謝申し上げます。

KFCの事業について、メディアの人や研究者、またNGO・NPOに興味のある学生さんからも「なぜ外国人高齢者の支援をはじめたのですか」、「どうして外国にルーツを持つ子どもの学習を支援しているのですか」、「どんな必要性があって生活者のための日本語教材をつくることになったのですか」etc・・・事業の経緯や理由を何度も聞かれます。

その都度、問題の背景（外国人の歴史やとりまく制度の不備、外国人への認識や文化）

や気づきのきっかけ、見えてきた実態、事業の効果などについて団体の代表として語ります。

何度も何度もそんな場面を繰り返していると、自分が語っているのにしらじらしい気持ちになることがあります。

えらそうに捉えられるかもしれませんが正直な思いを書くと、KFCがしてきたこと、今もしていることはあまりにも自明なことなのに声も力もないマイノリティの問題だからと放置されたり、無視されたり、見て見ぬふりをされたりしていることです。

事業や活動を聞く人たちの多くは、理由やきっかけを知ること、伝えることで状況が変わることを望んでいます。そのことは尊いことだともわかってもらいます。そのことをわかっているけど何度も何度も同じことをある種のわかりやすいストーリーにして語っていると自分の言葉でありながら、これが真実なのかな、本当にそんなことを思ってきたのかと考えるのです。

震災ボランティアが被災地の外国人と接する中で気づいたことに取り組んできたというある種の予定調和的な話ではなく、世の中にはおかしいと思っても力が足りずできないこと、理屈ではできそうでも実際にはできないことがたくさんある。そのことも踏まえて成長していく中でできることをしているという話をするほうが正直なのでは。そんな話を受け止める感性が本当は外国人を含めたマイノリティが住みやすい世の中に繋がるのでは、とも思うのです。

たくさんの助力を得て開設できたグループホームは、今になってやっとできた、ようやくできた事業です。たくさんの力を借りて出来たことですが、「やっと」、「ようやく」KFCが精一杯背伸びして届いた状態です。やりながらになります。もう少し成長して安心してもらえる場に早くしていくつもりです。

そんな精一杯のグループホームの準備の中なのに、KFCでは去年につづき福島の子どもを夏休みに受け入れる準備をしています。若い人が中心に準備を進めています。

もしかしたら福島の子どもの一時保養は必要ないことかも知れません。

けれど後で子どもの被害を追いかける側ではなく、子どもになにもなかったことを準備する側でKFCはいられたらと思うのです。

今できることと今やるべきことは時に相反します。

そのなかで何をするかを考え、決断したなかにはころざしがあり、後での話は少し余分なヒレがついていくように思えます。

(理事長 金 宣 吉)

◆この度グループホームの施設長になります

グループホーム ハナイよいよ始動ですね。おめでとうございます。

すべての始まりは、今から18年前の阪神大震災にあるように思えます。生き方を根幹から揺さぶられたのも、ボランティアが市民権を得ていったのも。そしてK F Cが生まれたのも。

当時私は、神戸協同病院の総師長として、全国から支援に来てくださったボランティアの窓口を担当していました。

その頃、日ベトの事務所の一角に一つの机と電話が置かれていたのを、日本ベトナム友好協会の会員だった私は覚えています。それがK F Cの始まりでした。

デイサービスセンターハナの会に声をかけてもらった事から、この度、グループホームの施設長の話がきた事と言ひ、これも何かの縁でしょうか。

50代の後半から、あまり考えないで、風に吹かれて、という生き方をしています。

考えたところでたいした結果は出ないのではと。今までの人生の積み重ねの結果として、私のところに話が来たのではと。今までのつながりのなかで今がありと。余程の事が無い限り断らないようにしています。

グループホームを運営していくにあたり、K F Cの精神であったり理想を具体化、具象化する事が私に与えられた役割だと思っています。

それは私一人がやる事ではなく、新たに採用されK F Cの職員全員がやって行く事です。

グループホームの入居者を見ても、職員を見ても、今までの対象が在日コリアン中心から、より一層多文化共生テーマが課題として問われていると確信しています。

何はともあれ、7月の開設月がスムーズに行くことを祈っています。優しく見守ってください。

(グループホームハナ施設長 山根 香代子)

◆オープニングセレモニーに出席して

6月24日(日) 11時の開会を前に招待状の地図を見ながら会場へ急ぎました。新長田駅前と違って、開発が遅れているかに思われますが、よそ行きの顔をしていない親しみを感じる街並みにその建物はありました。今日のセレモニーを祝う民族特有の音楽の音色が近づくにつれて聞こえてきました。

金宣吉理事長の挨拶で、阪神淡路大震災の折に仮設で不安気に暮らしていた同胞の姿に接したのが、この事業を考える引き金になったと語られた時、列席者のほとんどがああの当時のひどい日々を思い出し、納得の表情でした。続いて、「途中、何度かこの事業を諦めようかと思われた時期もあった」との言葉で、実現までに苦労が並大抵ではなかったことがわかりました。また、最後に理事長が「個人的なことですが、」と前置きをして、苦しんでいたご自身を励まし、見守ってくれた家族に礼を言いたいと述べられた時、私は胸を熱くしました。それまでの家庭の苦しみ、悩みがご家族にも感じられるほどのものであったころ、それを気遣われたご家族の輪に感動を覚えました。

出席者のハルモニのお一人、95歳の方が記念品を受け取られましたが、そのお元気な姿に拍手を送りつつ、この方が異国で民族差別を感じながら、90余年生きてこられた年月に思いを馳せました。

テープカットの後、玄関先の広場で大阪の白頭学院建国中高等学校の韓国伝統芸能披露を見せて頂きました。帽子に付けたリボンを動かすには頭の動きの練習が必要だったと思われまし、投げ上げたものを別の方がしっかり受け止めるチームワークに日頃の練習の成果だと拍手、喝采でした。

今後、ここで同胞に見守られながら生活していられる高齢者の安泰を祈り、何らかの形で応援で

できればとの気持ちを持ちました。

(ニュース係 気賀 倭文子)

◆総会報告

5月19日(土)に2012年度総会を開催しました。委任を含めた15名の正会員とオブザーバー10名の参加で、総会は成立しました。

賛助会員で、活動を5年継続して頂いている方へ感謝状などの贈呈をさせていただいてから、総会は始まりました。

以下、総会資料の活動総括から抜粋させていただきます。

2011年度活動総括

2011年度は、K F C設立から15周年となり、支えてくれた方々への感謝の場を持つことができました。活動が15年(前身もふくめると17年)にわたり継続できたのは、たくさんの人の支援の賜物と考えます。

また、法人としての長期的発展に向けた準備期間として活動した結果、いままで抱えてきた課題も表出、また新たな事業に向けた準備にも忙殺される年でした。

成果としてまず挙げられることは、さまざまな困難をのりこえ神戸市が募集したグループホーム(認知症対応型共同生活介護)認可公募に応募し、応募19法人の中の5法人という狭き認可法人に選ばれたことです。

経済負担、人的資源からもハードルの高いグループホームの建設計画を進めていく中で自らが抱える課題も明らかにもなりましたが、社会のニーズに沿った事業をビジョンを持って進めていけば実現できる、「夢はかなう」ということが実感できる事柄でした。

また去年3月11日に発災した東日本大震災支援では、東北被災地への支援派遣にとどまらず、兵庫県に避難してきた被災者への物心にわたる支援、また放射能の影響で困難な生活を送っている福島の子どもの夏休み期の淡路島長期受け入れ支援などK F Cのネットワークを活用し被災者の本当に必要としている支援を実施しました。不安な状況にある子どもたちの喜ぶ姿を見られたことは、大きな成果でした。

その他にも新たに法人として取り組みをはじめた中国残留邦人帰国者等への支援は、「K F C帰国者新長田交流会」として定着、2012年度からは毎週1回の定期開催に発展する予定です。

従前からの継続事業では、日本語学習支援においては、神戸市の委託を受け、生活日本語コンテンツの作成と人材育成に着手、短期間の実施にもかかわらず、想定した以上の結果を残すことができました。

子ども学習支援においても大幅な参加者増となり、近隣の小中学校、教育委員会認知も含め次世代の学習保障の大切さが内外に共有でき広がりをもてた年でした。

例年、実施している「多文化共生を考える研修会」においては、過去最高の参加者を得ることができました。その他にも、韓国における移住者支援を学ぶスタディツアーの実施や神戸大学との共同研究会の開催、といった調査・研究活動も実施できました。

このように成果の多い1年でしたが、法人の事業拡大に伴う人の意識の問題、特にK F Cのあゆみやビジョンを共有できないことで大きな問題が発生しました。そのことを深く考え、人の輪で広げてきたK F Cの原点とその中心軸を再度共有することを皆で考え、実行できるK F Cになりたいと思っています。

15周年を振り返り今後を展望した時、分断や排除が進行する中で格差が広がり、貧困や孤立が深刻化する社会で弱者が不幸になる社会にならないよう事業を進める社会組織になることではない

かと考えます。

それは、定住外国人、民族的少数者の問題に取り組んできたKFCが到達した弱者を周辺化する社会構造に対し、取り組む姿であり、団体の名称を超えた領域にKFCが向かうことでもあります。それはこだわりを捨てることではなく、定住外国人という言葉にこだわり進めてきた事業の中からは生まれなかったことであり、そのことを誇りにさらなる発展を期します。

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆日本語ボランティアをはじめて

私は、先日からKFCで外国の方々への日本語学習支援ボランティアの活動を始めました。今回はコーディネーターの方のお取り計らいで、KFCの機関紙に挨拶を兼ねて寄稿文を掲載させていただく運びになりました。というわけで、簡単にKFCでのボランティア活動についての意気込みや神戸での生活を書いてみたいと思います。

私は、今年の三月に山梨から神戸へ越してきました。現在は日本語教師の免許取得のため、養成講座に通いながら、週に二回KFCの活動にボランティアとして参加しています。さて、神戸に住み始めて四か月になりますが、最初に神戸に来て衝撃を受けたのが、海に面していて港があることでした。山々に囲まれ、空港ひとつない内陸の山梨県に生まれ育った私にとって、船が出入りし波止場に汽笛が響くきわめて開放的な神戸の街の雰囲気は、とても新鮮でした。また、街中に歴史あるパン屋や洋服屋、中華街を代表とする様々な外国料理の店が点在する様子から、神戸が古くから諸外国の文化や人々を受け入れてきた街であることを窺い知ることができました。そうした海外交流の長い歴史と文化の発信地としての性格をもつ神戸で、外国人の方々に日本語を教えると思うと、とても気合が入ります。今後も継続してボランティア活動に力を入れていきたいと思っています。

さて、最初、山梨から神戸へ来る前は新生活に胸を膨らませながらも（関西だから、吉本の芸人みたいなゴリゴリした人が沢山いるのかな……関西弁でまくしたてられたりしたら大変だ！）と内心初めての関西に少し緊張していた。しかし、住んでみれば、人も親切でやさしく、町もにぎやかで一気に神戸が好きになってしまいました。在住四か月にして、このままずっと神戸に住みたいと思っているほどです。（いったい神戸は、なぜこんなに居心地がいいのだろうか……？）最近、養成講座の友達にこの不思議なまでの神戸の魅力の秘密を聞いてみました。すると、（神戸は港から発達した街だから、いろいろな人や文化を受け入れる柔軟な街だから住みやすいのでは……）とのことでした。私は、柔軟さというものは、常に絶え間ない実践によって維持されるものだと思います。というわけで私はKFCでの日本語学習支援のボランティア活動を通して、神戸の街の「柔軟さ」の実践に微力ながら携わっていきたくて考えています。

まだまだ日本語教育の経験も浅く、若輩ではありますが、他の経験豊かなボランティアの方やコーディネーターの方々からアドバイスをいただいて、外国の方々の日本語学習の力になれるよう、努力していきたくてと思っています。どうぞよろしくお願いします。（水野 大地）

【山梨の豆知識！】

- ・アサリの消費量日本一。そして、静岡に次ぐマグロ消費地でもある。
- ・人口当たりのすし屋の数も日本一！山梨では些細なことでも祝い事があったら寿司！
- ・日照時間は日本一！桃、ブドウ、スモモ、とにかく果物がおいしい！
- ・ミネラルウォーター出荷額日本一！……ちなみに兵庫県は二位だそうです。
- ・貴金属製品出荷額日本一！……甲府には全国唯一の公立ジュエリー専門学校がある

【神戸に来てカルチャーショック】

- ・桜餅がなんだか半透明で小さい。（山梨では桜色をした柏餅風で大きい）
- ・姫路とシメジ→山梨では「高低低」とアクセントをつける。神戸は「低高高」
- ・「夙川」→最初来たとき読めなかった
- ・ところてんに黒蜜。まだトライしていない。やっぱり辛子に酢醤油。
- ・油揚げは「うす揚げ」と表記される。
- ・牛筋→山梨では食べたことがなかった。神戸で初めて食べた。とてもおいしい。
- ・山梨でネギと言ったら長ネギ（神戸でいうところの白ネギ）。青ネギは神戸で初めて見た。

◆お弁当ミーティング

「日本語を定着させる方法として100のヒントを作ろう」と4月5月と皆で方法を出しあっています。その中でふだん疑問に思っていることなども話していただき共有の知恵袋を作ろうというわけです。5月のミーティングではこんな話がありました。

①テキストを途中で変えることは？

テキストの内容を検討して日本語学習が始まるわけですが、もし途中でこのテキストは？と迷ったら学習者にその理由を話して変えることもよし。

②「みんなの日本語」の各課の冒頭にその課で学ぶ文型がいくつかあります。勉強の際この文型すべてを取り上げないといけないう疑問があがりました。学習者の力に合わせてその中で今必要と思われるものだけやってはどうでしょう。

③語彙を覚える方法で「みんなの日本語」

の文法解説書を使う時日本語を隠して中国語を見て日本語を声を出して言う。練習問題は本を見ないでやります。

④学習者の中には字を目で追って声を出さない人がいます。コミュニケーションをとるためには声を出して言うつまり発話が大切です。

⑤カタカナを覚える時に、こちらが言って書かせる（いわゆる書き取り）を毎回始めに10個ずつぐらい繰り返し言って定着させる。

⑥音教材をもっと活用する。

⑦シャドーイング（音を聞いてあとを追いかけて言う）、⑧キクタン500。⑨3行くらいの日記を書いてもらう。⑩日本語の映画、アニメを見る、NHKのこれなら覚えられる〇〇語など。

次回7月25日12：15～

ご参加お待ちしております。

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆インターン紹介

私がKFCの学習支援のお手伝いを始めさせていただいてから、もう7か月になります。そして、この6月からKFCでインターンシップをさせていただくことになりました。インターンシップ中、東日本大震災支援活動の被災地の子どもたちの一時保養(キャンプ)事業に関わらせていただいたり、引き続き、外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援をさせていただいたりします。私がKFCで学習支援を始めたきっかけは、大学の先輩からの一声でした。その先輩は、以前からKFCで学習支援をされていて、私に「KFCで学習支援してみないか？」と声をかけてくださいました。私は、その時まで、外国にルーツを持つ子どもたちと関わったことがなく、ちゃんと勉強を

教えることができるか、コミュニケーションをとれるか、とても不安でした。しかし、先輩が、外国にルーツを持つ子ども達の力になっていることを知り、私もお手伝いしたいと思いました。昨年の12月、初めて学習支援に行ったときのことは、とても鮮明に覚えています。まだ何もわからなかった私に、子どもたちは「あ、新しい先生や!」「先生、名前なんて言うん?」など、積極的に話しかけてくれ、緊張もいつのまにかほぐれていました。それから、毎週学習支援に行っていると、担当以外の子どもたちとも親しくなり、子どもたちが学校での出来事だけでなく、「授業が全然わからない」「テストの問題文の意味がわからないから問題を解くことができない」などの悩みも話してくれるようになりました。子どもたち一人ひとりの学習状況や悩みに応じて、サポートするためには、ただ勉強を教えることだけではなく、このようなコミュニケーションをとり、子どもたちの声に耳を傾けることが大切だと思いました。

また、子どもたちは、この学習支援で自分と同じように外国にルーツを持った仲間を見つけることができたり、母国語で思いっきり仲間と話すことができます。日本語を学び、勉強することも大切ですが、学習支援は、子どもたちにとって母国語で話すことができる貴重な場でもあるのだと思います。これからも、子どもたち一人ひとりと向かい合い、学習面だけでなく、幅広くサポートしていきたいと思っています。

(兵庫県立大学 経済学部 津田 紘那)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆六甲山旅の思い出

神戸定住外国人支援センター（KFC）主催で5月29日に行われた、第一回 新長田帰国者交流会バスツアー「六甲山と有馬温泉」に参加させて頂いたことを心から感謝致します。

私は朝遅い癖がついていますが、この日は珍しく早めに目が覚めました。軽く朝食を済ませて、家を出ました。新長田帰国者交流会の初めてのバスツアーに参加する帰国者の皆さんと交流会のスタッフの方々は指定場所に集合し、予定の時間にバスに乗って目的地六甲山へ向かって出発しました。山道は、カーブばかりの登りで、一時間ぐらいかけてようやく山頂に近い六甲オルゴールミュージアムに着きました。このミュージアムは、100年前からヨーロッパやアメリカで親しまれていたオルゴールをはじめ自動演奏楽器、自動人形や、関連する資料を収集して開設されましたが、その専門性が評価されて、全国で初めて博物館法による博物館相当施設に指定されました。2階コンサート展示室ではオルゴールなどの自動演奏楽器による100年前の様々な音色を聞き、様々な演奏楽器を拝見し本当に神韻(しんいん)縹渺(ひょうびょう)とした気分を味わいました。

駐車場で昼食を済ませて、次の見学地「六甲高山植物園」（オルゴールミュージアムの隣）に行きました。

次に訪れた有馬温泉の町並みは、昼前に激しい雨を浴びた木や花がみずみずしく、曲がり坂や細道はさらに町並みを綺麗に見せて、私達観光客を歓迎しているような気がします。

有馬は温泉町で、ここの湯には硫黄やカルシウムなど様々な成分が含まれており、病気や怪我を治す働きがあります。だから、「湯治」（湯につかって病気や怪我を治す）といって、よく利用されています。特に、温泉のある所は、美しい山や川など自然の景観にも恵まれているので、山の緑を眺めながら、あるいは川の流れる音を聞きながら、のんびりと温泉につかるのは人間の楽しみの一つです。

皆さんは金の湯に入ったり、銀の湯に入ったり、足湯に入ったり、それぞれ楽しんで、旅の疲れ

も吹っ飛んでしまったようです。とても楽しいバスツアーの一日でした。有難うございました。
(KFCボランティア、帰国者一世 澤 政道)

■■■ ハナの会 ■■■

◆花とハナの遠足

春の遠足、どこにいこうかと、私たちスタッフは場所選びに悩んでいました。ハルモニたちの意見を聞こうと、しあわせの村はどうか？動物園はどうか？元気なオモニたちははっきりと、「そんな所は行きたくない！！」「あそこなら行くよ！！」といろんな意見が飛び交い私たちはとても悩みました。「花が見たい！」というハルモニたちの声から、5月28日、29日の二日間に分けて、神戸花鳥園へ遠足に行くことに決めました。

遠足の当日は朝からデイのスタッフが愛情をこめて、キンパ(韓国のみまき)のお弁当を作りました。ハルモニたちも遠足となると、とてもおしゃれをして、ウキウキワクワク車に乗り込み出発しました。到着すると、数え切れないほどの大輪の花が頭上から垂れ下がり、咲いている空間にみんな思わず深呼吸。お弁当を満開の花の下でおいしく頂き、自然と会話も弾みました。大迫力のバードショーでは、フクロウなどがハルモニたちの頭上ぎりぎりを高速で駆け抜け、羽音や風を間近で感じる事が刺激になりました。

きれいな花や植物、動物にふれあいなごんだ時を過ごせました。私たちスタッフが一番見たかった利用者の笑顔がたくさん見られたので、遠足は大成功に終わりました。(清田未生、鮑小君)

■■■ 今後の予定 ■■■

■新長田帰国者交流会

「秧歌(ヤンコ)風よさこい」発表

7月28日(土) 於 しあわせの村

■生活日本語を教える支援者養成講座

8月18日(土)～9月15日(土) 全5回

14:00～16:30 於 新長田勤労市民センター

■「多文化共生」を考える研修会2012

8月20日(月)、22日(水)、24日(金)、

27日(月) 13:30～16:30

■CAP(キャップ=子どもへの暴力防止)支援者向けワークショップ

8月30日(木) 13:30～16:00 於 KFC事務所

■福島の子どもとKFCの子どもの交流会

8月8日(水) 於 六甲山牧場